



Kazé



ルヴァン便り No.6

2014.6

生誕130年・西村記念館 築100年 記念企画展

大正の理想 西村伊作その生活と芸術

The dreams of the Taisho Period The Life and Arts of Isaku Nishimura

明治維新以降、我が国は欧米から科学技術を取り入れ急速に近代化しましたが、人々の私生活は一部を除き旧態依然としたものでした。

伊作はこのような状況を憂い、今後世界に生きる日本人の私生活の近代化、衣食住や教育の改革に真剣に取り組みました。伊作は生活の中に絵画や陶芸の創作など「芸術」を取り入れ日常を豊かにするとともに、創意工夫を凝らして改善された「生活」そのものも「芸術」と考え、その創造を自らの喜びとしました。そして彼は自らの生活の理想を現実のものとした我が国における先駆者となったのです。

本企画展では、伊作の活動の背景、生活実践、社会での活動、戦中の伊作等々をご紹介します。伊作が活躍した時代と今日とは状況が大きく変わることはいうまでもありませんが、彼の主張や姿勢は、現在社会でも通じる普遍的なものが含まれています。

この企画展が、今後の日本人の日常生活を考えるうえで示唆に富んだものとなれば望外の喜びです。



自邸Ⅲ(1914年)



自邸Ⅲの新築現場(1914年)

西村伊作の建築を訪ねて 「若竹の園」 倉敷市中央

今回紹介する「若竹の園」は倉敷にのこる保育施設です。

倉敷と言えば倉敷紡績社長大原孫三郎の理想主義的な会社経営や大原美術館などの社会貢献活動がよく知られていますが、この「若竹の園」もその活動の一つと見ることができます。大正9年に大原の妻壽恵子の発起により「倉敷さつき会」が設立され、大正11年さつき会活動の一環として託児所の開設が計画されました。そして同14年に「若竹の園」は開設されたのでした。

園の設計・施工を伊作に依頼した経緯についてはおおよそ明らかです。伊作は大正デモクラシー期、生活改善や教育・住まいの改革の主張で注目を集めていました。その伊作の主張に強く共鳴した人物に林源一郎がいました。林は倉敷基督教会の信徒の中心人物の一人であり同時に倉紡の要職にも就いていました。伊作はこの林に乞われて倉敷基督教会を大正12年に完成させ、その後も伊作は林や倉紡関係の住宅を手掛けました。この様な伊作と林の信頼関係を背景として、新しい時代の保育施設を求めるさつき会の求めに伊作が応じたと考えられます。

この園は大原美術館の南にあり、大正14年の開園時、三棟の園舎から構成されていました。これらの園舎に教室、遊戯室、午睡室、食堂、事務室、医務室など機能別にそれぞれの部屋が設けられ、当時としては非常に先進的な保育所です。この保育所では倉紡関係者のみならず広く一般の子供たちを受け入れました。

園舎の外観は一言でいえば伊作の作風がよく表れた英国田園住宅風。素朴な温かみのあるデザインです。屋根はかつては天然スレートが葺かれ、外壁は小砂利を混ぜた白漆喰塗。とんがり屋根の玄関が可愛らしく、その前の園庭にはサークルが設えられています。また庭の中央には小川が流れていました。この園に通った子供たちは「まるで夢の国のようだった」と回想しています。

伊作は著書「我子の学校」に次のように記しています。「現今の多くの学校は実に無味乾燥な感じの校舎と校庭をもつて居ます。工場よりも殺風景なのが多いのです。」「私の最も理想とする校舎は住家のやうな感じのものです。農民の家のやうな風雅な家が樹木の中に建ち、美しい草花の庭のある静かに落着いた……」

「若竹の園」はこのような伊作の理想を実現したものでした。



「若竹の園」 1925(大正14)年 倉敷市



伊太利ネーブルス近郊の家 伊作画
「サンセット」掲載絵

●5月4日

朝博物館へ行く。彫像が多くポンペイから出たものも多くある。秘密宝がある。画も色々あつた。○で○を○○して居るものや画を○○して居るものがある。多くはその画を○る為めであるが中には実際○○して居るらしいものもあつた。

午後二時の汽車にてネーブルス発ローマに来る。途中景色のよい所が多い。葡萄畑が多くある。子供の女なども見へる。家はどこも石や土で作つたの計り。木の葉の色がよい。新しい葉が出た計りで黄ばんだ緑色をして居る。ホテルドミランと云ふに泊る。ネーブルス程よくない町の中でさらくつだ。

●5月5日

朝から徒歩でパンセオン、カピトル、コロセアムを見、芸術展覧会を見、それからセントピーターへ行き、(雨ふりだす)それからセントポールへ行つた。多く電車で廻つた。ピーターの美麗壮大なのは驚く。併し彫像至る所にありて一々見て居られぬ。さつさとかけ歩く。町にトンネルがある。其中を電車が通る。瀬戸物の瓦で内側を張つてあつて実にきれいだ。

●5月6日

バチカン宮殿を見る。一番見る可き所は閉ぢてあつて見る事が出来なかつた。午後二時に汽車でフロレンスへ向かう。車中一人の独逸の女と米国人の夫婦と四人一座に座つて英語で話することが出来た。米国人の夫婦は宣教師でエジプトを見に来た人であると云ふ。A.D.ヘール及其家族をよく知つて居た。独逸の女がステーションでカヒーをのむためカへに入つたら汽車が出かけたのでいそいで○に返り室内でカヒーをのんで居ると汽車が動き出した。カヒー店の給仕が茶碗をもつて汽車から飛降りるとき皿を破るころげる実にこつけいだつた。フロレンスに降りることを止めてヴェニス迄直行する事にした。フロレンスからヴェンナの女三人と○○一人は美術家であつて英語をよく語る故色々の話をした。フロレンスを通る時は八時半であつた。薄月で美しい夜だ。

●5月7日

汽車で眠つて目がさめたらもうヴェニスに着く所だつた。まだ朝早く五時何分頃であつた。同車の女共と宿へ行く。ホテルに非ずしてペンションであるが、却つてホテルより心地がよい。ヴェニスは成程水中の町であつて中々面白い。殊にゴンドラ船の形がよほどよい。あすここを見て歩いたがヴェニスには木が少い。家でたてこめてある。



伊作の欧米旅行日記(5)

伊作は1909(明治42)年3月27日横浜をドイツの商船で出港し、香港、シンガポール、スエズ運河を経て、イタリア南部の港町ネーブルス(ナポリ)に上陸した。37日間の長い航海の間も乗船していた外国人と交流し見聞を広めた。上陸後はネーブルスやポンペイの遺跡、ローマ、ヴェニス各都市を足早に、しかし精力的に見て廻っている。フローレンスには立ち寄る予定であったが変更し、ヴェニスに直行した。

なお、文中の句読点は田中が挿入したもの。○は判読不能の文字。意味不明の箇所も少なからずあるが原文のままを原則としたのでご容赦願いたい。

●1909(明治42)年4月30日

右手にCreteクリート島が見へる。ギリシヤの南の方へ来たのである。山の上には雲がかかつて居る。午後子供の会があつた。子供が皆○を○つて紙の帽子の色んなのをかぶつてねり歩いた。例の楽隊が先にたつてブクブクやると子供がぞろぞろついて歩く。生まれて一月計りの子供が親に抱かれて帽子を頭にのせて歩いたので大喝采を得た。行列がすむと甲板のテーブルにて色々の菓子を食べて居た。大人は皆面白がつて見て居るのが面白い。写真を写すやつもある。子供の数は八十何人も居ると云ふ。

独逸人の日本に三十何年も居た人に色々日本人を○ふ事の話○を聞いた。日本人の学校出のクラークがだめで不正な事や其外俸給の他賞与はあづかつて置く事など色々説明して居た。

●5月1日

明日ネーブルスへ上陸する支度に忙しくチップの配分に骨を折った。夜八時過ぎ月明りでメッシナ海峡を通過するとき地震の為に破壊された町にキラキラと多くの光の輝くを見た。二等のスモーキングルームでシパンをぬいた。十一時ごろ火山のそばを通つた。

●5月2日

朝八時半頃ネーブル上陸。荷物を一寸ぜい関でしらべてホテルの人にとらへられてMetropolホテルに入った。但し他に米国人の連が三人ある。ひるめし前に公園を散歩した。町は甚きたないが公園はきれいだ。水族館を見る。別に驚かなんだ。午後主殿を見た。そしてGalleria Umberto と云うガラス天井の町を見た。日曜で皆しまつて居た。そこで連とはぐれた故一人で町をあてなしにぶらついた。そしてCastle Newron と云ふ所へ入つてみた。芳散された人の屍などを見た。夜は又ガレリヤへ散歩に行つた。いつもよくにぎやかである。活動写真を見た。一人二十センで日本の八〇計りだ。安い。カフェに音楽をやつて居つた。ホテルで昼食のときそばのテーブルで日本人が一人居た。夕食の時話しをしたら石川千代松様であつた。(名高い動物学者の)水族館で物をしらべて居るのだと云ふ。



伊太利ネーブルス 伊作画
沖野岩三郎編集紙「サンセット」明治43年4月15日発行、掲載絵

●5月3日

朝からポンペイへ出かけた。ネーブルスから汽車で四十五分計りである。掘出されて奇麗になつて居る昔の町を三時間計りぶら付いて足が棒になつた。人の死んだ其まの所や、パンの黒こげを陳列してある所を見たのち、石○で出来て居る町を見た。壁画ののこつて居る所もある。町にはサイドウオークがあり所々に飛石があり石の道は車の輪の為にへこんで居る。芝居や寺がある。浴場がある。皆立派なものであつたらしい。我らは案内なしに見て歩いた。

多くの人が行つて居る。スイスホテルで食事をなし休んで居ると英国皇帝及皇后がポンペイを見に来たのでホテルの前を通ると云ふので、それをまつて居るとついそばを数人の供と歩いて通られた。人々が帽子をとつてあいさつすると丁ねいに一々皇帝も帽子をとつて礼をして居つた。体の小さい人である。皇后も小がらな女だ。四時過ぎネーブルへ帰つた。クツク社でロンドン迄の巡遊切符をかつた。八磅*足らずであつた。

ポンペイ此辺は皆ラバで家を建ててある。煉瓦もうすい平たいものを用いて居る。屋根に瓦を用ひずセメントの様なものでぬりかためてある所が多い。

*ポンド

2014年度 ルヴァン美術館のご案内

6月7日(土)～11月3日(月) 2014年

10:00～17:00

水曜日休館(7月15日～9月15日は無休)

企画展： 大正の理想 西村伊作 その生活と芸術

私は一生の事業として何をなすべきかを考えた。日本人の生活をよくする生活改善、衣食住の本、建築の本を書いた。芸術を尊び絵も沢山描いた。その内に教育が一番立派な事だと思って自分の家の財産を使って文化学院を創立した。学校を経営したら、自分の思想や学問的でない哲学や、我等何を考え何をなすべきかを人々に教えらるから、私の一生の一番大切な時期を文化学院に費やした。

私は芸術家だと人にいわれる。しかし私は芸術を商売にして生活していない。

私は若い時から絵を描き、建築をやり、陶器を作った。自分で土をこね、薬をかけ、窯に火を焚いた。それで私は芸術というものに一生の心の働きの大きな分量を用いた。私は芸術をするには、どんな心持ちを持つべきか、芸術は社会とどんな関係を持つかについて考える事に私の考える時間の多くの部分をとった。それが私の心の中の芸術の世界の道徳となって私の心に残っている。

芸術的作品は作っていないけれど、芸術について考えることは今でも続いている。

西村伊作(我に益ありより)

ローズフェスティバル - バラとお茶の会 -

10:00～17:00 会費：2,000円(各種特典あり) 6月28日(土)～7月13日(日)

美術館入館券2枚、カフェでのお茶とケーキセット券2枚付き

*フラワーアレンジメント 体験教室(1,000円 お茶付き) 7月6日(日)

10:00～16:00 捧泉美先生

*美術館展示説明会 建築史家/田中修司氏 13:00～ 7月6日(日)

ルヴァン サマーコンサート

①トイピアノ(畑奉枝・青田いずみ・小川耕祐) 8月2日(土)

②近藤和花 ピアノコンサート 8月9日(土)

③ボサノバ(木村純・三四郎) 8月16日(土)

④一噌幸弘・壺井彰久・山田路子 Trio 8月30日(土)

⑤望月優芽子(ピアノ)・神谷未穂(ヴァイオリン)・ 9月7日(日)

エマニュエル・ジラルル(チェロ)

*①②④⑤のみ開場 16:30 開演 17:00

*③のみ 開場 18:00 開演 18:30

ビュッフェ(予約制：先着30名 1,800円) 17:00～

入場料：3,000円(中学生以下：1,500円) ワンドリンク付き

*④⑤は軽井沢ペット福祉協会チャリティコンサート

秋のアートフェスティバル

10:00～17:00 美術館入場無料 10月12日(日)

*ルヴァン美術館の庭でのスケッチ大会

*フラワーアレンジメント 体験教室 捧泉美先生(1,000円 お茶付き)

*美術館展示説明会 建築史家/田中修司氏 13:00～

☆カフェテラス Cafe Le Vent、ミュージアムショップ Le Ventは、常時ご利用いただけます。

ルヴァン美術館：〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢957-10 Tel.: 0267-46-1911 Fax.: 0267-46-1910

東京事務所：〒107-0052 港区赤坂9-6-14 Tel. & Fax.: 03-3401-8896 <http://www.levent.or.jp>